

## 草刈り作業時間削減で 品質向上に注力

農家さん：株式会社菱沼農園（飯坂）

導入機器：ロボット草刈り機6台（和同産業株式会社製 KRONOS）

栽培品目：サクランボ、モモ、ブドウ、リンゴ

### 〈ポイント〉

- \*草刈り作業を24時間自動化
- \*削減した時間は栽培管理に充てて品質向上
- \*効果をさらに高める「ほ場づくり」も重要

—導入しているスマート農機具について教えてください。

**代表・菱沼健一さん** ブドウ園に2台、モモ園に4台の計6台のロボット草刈り機を稼働させています。刈刃のついたロボット本体と充電ステーションがセットで、ほ場に埋めた電線ワイヤーで囲んだ範囲を、草を刈りながら縦横無尽に動き回ります。設定や管理はスマホのアプリで行います。



ロボモアを活用する菱沼さん



支柱を避けながら草刈りをする

—導入のきっかけは。

**菱沼さん** 農業のスマート化は以前から関心があり、ロボモアは令和5年の春先に初めて4台導入しました。ほ場が大規模なので、作業の単純化や省力化が必要不可欠です。その点、労力のかかる草刈り作業に人の手を割かなくて済むようになったので、とても画期的なロボットだと思います。ほ場によって乗用モアとうまく併用しています。

—メリットは。

**菱沼さん** 草刈りに充てていた時間を、栽培管理など他の作業に充てられることですね。品質の向上にもつながります。特に夏は月に3回以上必要だった草刈り作業が不要になりました。

1時間充電⇒1時間稼働のサイクルを24時間自動で繰り返すので、常に刈り高を一定に保つことができ、病害虫の予防にもなります。繰り返し使っていると、草の質も変わるようで、深く根を張る草よりも横に広がる草が増えました。芝のようなきれいな仕上がりで、作業をする上でも気持ちがいいです。また、雨の日も24時間稼働しています。



ブドウ棚の上部に電線を通して2台の充電ステーションにつなげている。電気代は月1000円程で、燃料代削減にも貢献



一本支柱で支えられたモモの木。作業効率の高いほ場づくりに力を入れている

—農業のスマート化をどう考えますか。

**菱沼さん** スマート農業は「ほ場づくり」も大切な要素です。人やロボット、機械が効率的に動けるように、樹木を一直線に植えたり、木の形を揃えるなどの工夫があれば、スマート農業の効果がより高く出ると思います。私の園地では、モモは一本支柱にして支柱の数をできるだけ減らし、ロボモアが働きやすいようにしています。「ほ場づくり」も同時に進めていきたいですね。